

第15回八尾市立病院経営計画評価委員会(議事概要)

<1> 日 時:令和3年8月26日(木) 午後2時～午後3時15分

<2> 場 所:八尾市立病院 北館5階会議室

<3> 出席者

委員長	植野 茂明	(病院事業管理者)
副委員長	田村 茂行	(病院長)
委員	吉田 裕彦	(八尾市医師会副会長)
	谷田 一久	(株式会社ホスピタルマネジメント研究所代表取締役)
	柘井 敏子	(元八尾市立病院職員)
	佐々木 洋	(特命総長)
	星田 四朗	(総長)
	田中 一郎	(副院長 兼 診療局長)
	福井 弘幸	(副院長)
	藤田 淳也	(副院長)
	千種 保子	(看護局長)
	牧 貴生	(八尾医療 PFI 株式会社ゼネラルマネージャー)

<4> 次第

1. 開会
2. 令和2年度の業務状況、並びに八尾市立病院経営計画の実施状況について
3. その他
4. 閉会

[資料]

- (1)八尾市立病院経営計画評価委員会設置要綱
- (2)八尾市立病院の業務状況(令和2年度) …… 資料1
- (3)八尾市立病院経営計画(Ver.Ⅲ)の実施状況(令和2年度) …… 資料2

<5> 報告事項

- ・委員の交代等について事務局から報告。

<6> 評価説明・質疑応答・意見交換

- ・資料1の概要及び資料2の構成と評価基準について事務局より説明。
- ・令和2年度の業務状況及び八尾市立病院経営計画の実施状況について、収益部会及び費用部会の各部会長である委員より評価内容を説明後、委員間で質疑応答・意見交換を行った。

(委員)収益部会での検討内容と評価等について説明を行う。

「1. 公立病院としての役割を果たす取り組み」の「(1) 地域医療支援病院としての役割」について、まず、①紹介・逆紹介については、紹介率、逆紹介率ともに目標を達成し、前年度実績も上回った。ただし、初診紹介患者数、診療情報提供数が目標を下回ったが、初診患者制限等、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたことによるもので、総合的な評価はBとした。②地域医療連携の推進について、病診薬連携ネットワークシステムの情報共有件数は、目標を大幅に上回る件数となったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、協議会や合同研究会などが、中止を余儀なくされたことがあったため、総合的に判断し、評価はBとした。③訪問看護の支援について、新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年度よりも下回る結果となった。ただし、実際には同行訪問以外にも、電話による相談対応など、訪問看護支援について一定の活動は行っていたが、総合的に判断して、評価はCとした。④情報提供についても、新型コロナウイルス感染症の影響により市民公開講座やTake!ABIなどが実施できず、出前講座も1回しか実施できなかった。一部緩和ケア研修会など積極的に開催したのもあったが、予定通り実施できなかったものがあったことから、総合的に判断し、評価はCとした。

「(2) 救急・小児・周産期医療の継続」について、①救急医療は、救急からの入院数が目標をクリアしたものの、救急患者数、救急搬送受入数が新型コロナウイルス感染症の影響を受け、ともに目標の数値を下回ったため、評価はBとした。②小児医療は、小児救急医療の輪番制での実施について、一時期、直接来院での小児救急受付について制限しなければならなくなったこともあったが、何とか体制を継続できた。さらに食物アレルギー負荷試験は減ったものの、成長ホルモン負荷試験は前年度より件数が増加したことから、総合的に判断して評価はBとした。③周産期医療は、目標が分娩件数 800 件で、令和2年度については730件と93%の達成率となった。ただし、全国的に分娩数、出産数がともに減少していくなか、相当に努力したとして、総合的に判断し、評価はBとした。

「(3) 疾病予防事業の提供」については、人間ドックやがん検診などになるが、新型コロナウイルス感染症の影響により、人間ドックの3ヶ月の休止等があった影響が出ており、いずれも前年度を下回る結果となったことから、評価はCとした。

「2. 医療の質の向上に対する取り組み」の「(1) がん診療の充実」について、①がん診療体制については、外来化学療法は目標を達成したが、その他の項目については、いずれも目標を下回った。こちらも新型コロナウイルス感染症の影響があったが、当院の柱でもあるがん診療について、コロナ禍においても努力した結果と考えており、以上のことから総合的に判断し、評価はBとした。②ネットワークづくりと情報提供については、中河内医療圏がん診療ネットワーク協議会の運営会議の開催や緩和ケア研修会の年6回の開催とともに、がん教育についても医師等が学校に出向いてがん教育を行ったことから、評価はAとした。

「(2) 医療機能の向上」の①高度手術について、手術件数、全身麻酔手術件数、鏡視下手術件数のすべての項目で目標を下回ったため、C評価とした。②チーム医療について、10チームの活動が行われた。また、新たに排尿ケアチームが加わり、研修会も実施されるなど、予定通り活動ができたということで、評価はAとした。③院内クリニカルパスについて、クリニカルパスの適用率は目標が 65.0%のところ、86.0%と大きく上回った。さらにパスセミナーや院内パス委員会などの活動もできており、評価はAとした。

「(3) 病床機能の見直し」は、医療ニーズに対応した病床機能による効率的運用について、昨年はコロナ色だったが、国や府からの新型コロナウイルス感染症患者の入院受入れ要請に対し、病床を確保し積極的に受入れを行うなど、医療ニーズに合わせて対応したことから、評価はAとした。

「3. 健全経営の確保に対する取り組み」の「(3) 医業収益の確保」について、①収益性の向上については、年間延入院患者数、病床利用率、年間延外来患者数で目標を達成できなかった。ただし、入院診療単価と外来診療単価については、目標を達成したことから総合的に判断し、評価はBとした。②診療報酬の確保については、レセプト平均査定率が高額な診療材料使用量の増加等に伴い、査定額も増えてきていることから0.06ポイント悪化した。また、窓口徴収率については、新型コロナウイルス感染症等の患者のPCR検査時における感染対策として後日精算としたため、95.6%から95.1%へ減少した。そのために督促件数等についても、増加したことから総合的に判断し、評価はBとした。

(委員)費用部会での検討内容と評価等について説明を行う。

「1. 公立病院としての役割を果たす取り組み」の「(4) 危機事象への対応」については、市の災害医療センターとしての機能の強化と市保健所等との連携強化を目標に、トリアージ訓練などを実施した。また、市保健所との連携では、新型コロナウイルス感染症に関して、PCR検査等の実施など、連携を密にして実施してきたことにより、評価はAとした。

「2. 医療の質の向上に対する取り組み」の「(4) 医療安全・感染防止」については、新型コロナウイルス感染症対策において、危機管理委員会を早期に立ち上げ、開催は100回を超えるなど迅速に検討し対応に努めた。検討内容は、感染症対策として、初診制限の実施、不急な手術等の延期、人間ドックや特定検診の制限など、どのように対応するのかについて幹部職員及び関係職員一体となって議論を行った。また、院内で感染対策がしっかりと徹底されたことにより、本院でクラスター発生は起こらなかったことから、総合的に判断して、評価はAとした。

「(5) 患者満足度の向上」については、目標は達成した。ただし、ボランティアについては、新型コロナウイルス感染症の影響により活動はできなかったが、登録はされており、いつでも再開できる状態になっていた。さらに、TQM活動についても提案型に加え、前年度の活動を継続させる拡大型と委員会から活動を依頼する委員会主導型の形を継続し、活動を活

発に行った。以上のことから、総合的に判断し、評価はAとした。

「3. 健全経営の確保に対する取り組み」の「(1) 医療スタッフの確保と人材育成」については、①医師について、正職 85 人の目標は達成し、会計年度任用職員については、目標に1人足りなかったが、合計数としては達成した。また、合同説明会への参加などの活動では、新型コロナウイルス感染症の影響でレジナビや大学説明会等が中止やウェブ開催となった。勤務環境の整備では、医師事務作業補助者が昨年度より増加した。さらに人材育成の充実では、臨床研修制度において、その取り組みを評価され、JCEP の認定を受けたことにより、府からの臨床研修医の定員を5人から6人に増員された。以上のことから、総合的に判断し、評価はBとした。②の看護師、医療技術員等については、看護師・医療技術員では目標を達成したが、事務職員が目標を下回った。しかし、会計年度任用職員が充分採用されていることから、総合的に判断して、評価はAとした。③医業収益と給与費とのバランスの維持については、新型コロナウイルス感染症の影響で、給与費は職員数の増により 5.7%の増となったことに加え、医業収益が 9.5%減少した影響が大きく、昨年度実績の 46.2%から 57.3%へと 11.1 ポイント悪化していることから、評価はCとした。

「(2) PFI 事業の継続」は、第2期が平成 31 年 4 月より開始し、第1期 PFI 事業と同じ八尾医療 PFI(株)が事業運営していることから、ノウハウや経験の蓄積でより一層の取り組みが行われており、さらに新型コロナウイルス感染症への取り組みとして、PCR 検査への対応や診療材料の確保など、病院一体となって取り組んだことにより、評価はAとした。

「(4) 材料費の適正管理」は、新型コロナウイルス感染症の影響により、患者数の減少によって材料費が 6.0%の減少となったが、それ以上に医業収益が 9.5%減少したため、昨年度実績より 1.0 ポイント悪化したことから、総合的に判断して、評価は B とした。

「(5) 医療機器などの整備・更新」について、手術支援ロボットの購入が新型コロナウイルス感染症の影響もあり先送りになったが、その他は予定通り進めるとともに新型コロナウイルス感染症への対応を最優先させるために補助金を活用しつつ、X線CT装置などの高額医療機器を優先的に更新した。よって、評価はAとした。

「(6) 施設・設備の維持管理」について、大規模修繕検討委員会を設置し、計画的な大規模修繕の検討を行うとともに当年度の更新工事が円滑に実施されるよう取り組んだ。また、令和2年度の更新工事については、手術室の改修工事など、予定通りすべて完了した。以上のことから、評価はAとした。

「(7) 省エネルギーの取り組み」については、エネルギー削減の取り組みとともに、新型コロナウイルス感染症の影響で患者数等が減少したことにより、使用量全体が減少した。ただし、省エネ法において前年度比1%削減が目標となっている「エネルギー使用原単位」において、患者数・病床利用率の大幅な減によりエネルギー使用原単位が昨年度比で9.0%増加しBクラスとなったことから、総合的に判断し、評価はBとした。

(委員) 令和2年度は最初から最後までコロナの影響を強く受けており、通常診療とこれまでの政策医療に加えて、新型コロナウイルス感染症への対応が求められる中で、ほぼ同じ人員で、同じ設備を使って、市民の皆様の期待に応えるために様々な対応を行ってきたことを、市民の皆様にもっと知ってもらいたいと思う。新型コロナウイルス感染症への対応は、非常に市民の関心も高く、政策的な領域であるので、しっかりと事実を記載すべきである。

また、新型コロナウイルス感染症への取り組みにあたり、国や府からの補助金や一般会計からの繰入金が増加しているが、国や府が補填するのは当たり前の話であり、市立病院としては、補助金がなかったとしても市民を守るために対応したはずなので、経営の穴を補助金で埋めてもらったかのような誤解を招かないようにすべきであり、経常損失を出さないように経営努力していくという姿勢を示すべきである。

また、資料2の病院としての評価について、新型コロナウイルス感染症への取り組みにおいて、病床を確保し、人材・資材を投入して対応すれば、通常医療が相当圧迫されるのは必然のことであり、その圧迫された部分について、ただ単に目標を達成していたのかという基準ではなく、例えば感染対策のために実施できないような目標については、評価方法を変えるなどということを考えてもいいのではないかと。

(委員) 日々、八尾市立病院の職員の皆さんは新型コロナウイルス感染症に対して、収益が上がらないにもかかわらず多くの時間を割き、様々な問題を解決しようと一生懸命取り組まれており、その部分をもっとアピールされた方がいいと思う。これからも応援させていただくので、よろしくお願ひしたい。

(委員) かつて看護師としてこの病院に勤め、第3期経営計画を策定する前からこの取り組みに参加してきた者として、本来、新型コロナウイルス感染症がなければ、多くの目標が達成できたであろうと思うと大変残念に思う。地域がん診療連携拠点病院として、がん手術件数では病床確保等の理由で入院患者に限界がある中でほぼ目標をクリアできるぐらいまで頑張っているのに、在宅患者の支援、他病院との連携等についても、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、思うように取り組みが進められなかったことは大変残念に思う。

市立病院では、通常医療にかかる術後患者も多くいるはずであり、新型コロナウイルス感染症の患者を受け入れるにあたっての感染対策をどのようにしているのかなど、多くのことがベールに包まれており、病院職員が一生懸命に対応している部分を伝えるべきだと思う。

また、病棟看護師が精神的に疲れていないのかと心配になった。新型コロナウイルス感染症に限らず、感染症患者が病院にいる場合、自らが感染しないように、看護職は日常生活も含めてかなりの努力をしていると思うが、そういう部分もアピールしてほしい。今年になって、佐々木特命総長を筆頭に、新聞や市政だよりなどで紹介されている市立病院の対応を見ると頑張っていることがわかるので、これまでどおりの評価方法では低く見えてしまうと思うことから、今回の自己評価は謙虚な評価であると思う。

(委員) 評価方法に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響をどのように考えて評価するのかということで検討した。ただ、今回の評価については、あくまでも数値の結果ということで、従来通りの方法で評価することにさせていただいた。

今回、各委員からご意見をいただき、より心強く、そしてしっかりと気合を入れて、新型コロナウイルス感染症やがん治療に対応していきたいと考えている。

(委員) 非常に暖かいご意見をいただいたと感じている。市民の安心・安全、そして生命を守っていく使命がある中で、新型コロナウイルス感染症にかかる PCR 検査、感染患者の入院受け入れ、予約救急外来、それにワクチン接種等に取り組んできて、今後も抗体カクテル療法等の話も出ており、あらゆることにおいて府や市保健所からの要請がある中、ほぼその要請に応えられるよう、職員一丸となって努力をしてきた。

今回の評価については、院内でもかなり議論を重ねた。新型コロナウイルス感染症の影響で目標が達成できていないのであれば評価方法を変えるという意見もあった。新型コロナウイルス感染症については、ここまで続くものとは予想していなかったところもあったが、現在は終息を迎えるために最大限の努力をしており、ワクチン接種も実施し、抗体カクテル療法についても実施に向けて検討するなど、今後に期待しているところもある。その結果、令和3年度に収まってくれば、令和4年度には再び今回の評価を覆して A 評価にできるように、職員一丸となって、今後の取り組みを頑張っけて進めていきたいので、ご支援・ご理解のほどよろしくお願いしたい。

(委員) 外部委員の皆様より、本当に暖かいご意見をいただき、感謝している。評価についてはできる限り客観化しようということで、数値目標に対してどれだけのことができたのかということを中心に確認して、こういう評価結果となった。新型コロナウイルス感染症の影響を受けて目標が達成できていないとすと言いつのようになるため、少し自虐的な評価になっている気はする。ただ、我々としても新型コロナウイルス感染症のせいにしたくないという気持ちもあり、こういう内容になった。

(委員) 自己評価というのはどちらかというと、自分たちに厳しく評価する傾向にある。それは、理解できる場所もあるが、市民に誤解を与えてはいけぬ。そういう意味では、外部委員としてはもう少し評価してもいいのではないかと思う。

私は医療系学者で、この1年半、自粛を強いられてきた中で、国会やテレビの情報などを見ながら過ごしてきたが、国は相当混乱しており、都道府県もおそらく混乱しているのが現状だと思う。結局、最後は現場と基礎自治体、それから市の医師会など現場に近いところで、どう組織化を図っていくかということが非常に重要になるのではないかと考えている。

医師の「個々の医師が診療に際して、外部の第三者ないし個人から不当あるいは不適切な影響を受けることなく、自らの専門的判断を自由に行使するプロセス」であるという考えが、本来こういう時にこそ発揮されるべきなのに、押さえつけられているような気がしてならない。

昨年、私は日本医師会の日医総研を通じて提言をしたが、まさに市民の皆様がいかに安心を与えるのかに加え、どう医療を届けるのかということ、たとえばどう医療へのアクセスを確保するのかというようなことがもっと重要にならないといけぬ。

やはり医療者は安全でなければいけない、とにかく医療をする人たち、そして医療に関わる人たちは安全・安心な環境を作ること、患者も安心できるし、地域の人たちも安心できる。まず、「八尾市立病院は安全なんだ」という存在に是非なっていたきたい。

日頃からいろいろな病院を見て、関わって評価し、それぞれの状況を伺っていると、地域の柱となるような病院、そういう経営政策を打ち立てていただければと思う。

(委員長) 令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響が色濃く、また1年を通して影響があったため、単年度収支が昨年度に引き続き赤字決算となったが、その影響下においても、陽性患者の受け入れを含めた病床確保やワクチン接種など、様々な事象に対して、病院スタッフが一丸となって、真摯に取り組んでいただいております、公立病院としての自覚を持った行動に対し、非常に心強く、また、うれしく感じている。

新型コロナウイルス感染症への対応にあたっては、市保健所、大阪府等と連携して取り組んできたが、市立病院における感染症などの健康危機事象への対応については、政策医療としての災害医療の一環に位置づけており、今後においても、感染症などの健康危機事象に対しては、感染症の感染力や毒性などを考慮しつつ、公立病院として、また地域の中核病院としての重要な役割であるとの認識のもと、災害医療の位置づけにより、日常の診療とは異なる姿勢で取り組んでいきたいと考えている。

さらに、今年度より新経営計画である「八尾市立病院経営計画 Ver.IV」により、これまでの病院経営の流れをしっかりと引き継ぎながらも、今後の「大阪府地域医療構想」も注視しつつ、公立病院としての自覚を持った病院運営をさらに進めて参りたい。

各委員にも、これまでと同様、引き続きご協力のほどお願いしたい。

(議事終了)